
学園で恋愛モノを書いた。

雪中晴点

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学園で恋愛モノを書いてみた。

【Nコード】

N1366T

【作者名】

雪中晴点

【あらすじ】

再会した幼馴染、かつこいい女教師、無口で気弱な後輩。その他出てくる（かもしれない）女の子たちと主人公のラブコメディー！の予定。

1話 帰還

飛行機の中、一人の少女が写真を眺めていた。次に、少女は外を眺める。

「今、あなたはどうしてますか？ みーくん・・・」

そう呟いて、彼女はシートに深く頭を預ける。彼と再会したときに、寝不足で、顔に隈が出来てしまっではいけない。きっと、彼は心配するだろうから。だから、今は・・・

「ふあ~~~~、あああああ」

長い欠伸を終え、教科書に顔を向けると、誰かに頭を叩かれる。

「そんなに私の授業はつまらないか？ 巽」

「いや、そういうわけじゃないんですけどね・・・」

巽たつみこと。今、頭を叩かれた可愛そうな男子生徒・・・俺だ。井上渚いのうえなほみ。今俺の頭を叩いた暴力教師だ。その美貌とさばさばした性格から生徒の人気は高い・・・らしいが、俺は苦手だ。ことあるごとに、こうなるからだ。

「お前、次のテストまでもう日がないんだぞ？ ちゃんと家では勉強しているんだろうな」

「まあ、それなりには」

嘘。全くしてない。第一そんな余裕も無いっての。

「前の補修も出てこなかったよな、それでいいと思っているのか？」

「……………」

正直、学生としてはいけないと思っています。

「あ、チャイムが鳴るな。異、次のテストで赤点取ったら……覚悟しとけよ」

そして、チャイムが鳴り。実は本日最後の授業だったので、HR後、速やかに掃除。掃除中、他の男子に羨ましがられた。なんでも、「井上先生に怒られるとは、うらやま……けしからん！」というこころらしい。はあ、そうですね。としかいえない。そういう一部の嗜好は胸の奥に閉まっておけ。掃除が終わり、時計を見ると、もうギリギリの時間。鞆を手に取り、早歩きで廊下を歩く。目指すは校門。階段の手すりを持ちながら走らないギリギリの速さで下る。下り終わり、曲がり角を曲がろうとした。

どんっ

と、誰かとぶつかってしまっ。

「あ、ごめんだいじょぶ？」

「……………」

ぶつかった相手は女生徒だった。前髪が長くて、表情までは読み取れなかった。とりあえず、手を差し出してみる。

「・・・・・・・・」

なかなか手をとろうとしない。なんか・・・怯えられてる？ 強引に手を取って女生徒を起こす。彼女は何かボーっとしていた。

「ああ、ほんっとーにごめん！ 今急いでるから・・・ごめんね」

そんな彼女を置いて、校門へと急ぐ。走りながら時計を見れば、一刻の猶予も許されない時間帯。さて、間に合うか！？

「・・・・・・・・あれ？」

しばらく動けなかった。男の人に（状況はどうあれ）手を握られたことなんて無かったからびっくりしてしまって。やっと復活したら、足元に何かが落ちていた。

「これ、さっきの人の・・・？」

携帯電話。ストラップも何もついていない。中を見るわけには行かないので、彼の向かった方向にまだ彼はいるか確認してみた。・・・いない、よね。急いでたみたいだったし。落し物として出すわけにも行かないし・・・とりあえず・・・帰ろう。明日また会えたら返そう。うん。そうしよう。

1話 帰還（後書き）

これ、読めるものじゃないよね・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1366t/>

学園で恋愛モノを書いてみた。

2011年10月5日05時08分発行